

# 農業塾第8講 秋冬野菜の播種と定植後の管理

～アブラナ科・セリ科野菜編



キャベツ

- ・特徴  
ヨーロッパの海岸の石灰質の岩場に自生していた植物が祖先とされ、葉が巻く結球キャベツは12世紀ごろに排出されたと考えられます。
- ・歴史  
日本では明治になって本格輸入されました。気候に合わせてさまざまな品種があるので栽培時期にあった品種を選びましょう。

今回は、秋冬野菜の播種と定植後の管理について講習を行いました。

秋冬野菜の代表作物は、アブラナ科のキャベツ・白菜・ブロッコリー・大根。セリ科の人参やセロリがあります。

連作障害を起こしやすい野菜や、育ちを左右する中耕の奥義、また土作りから収穫までの栽培のポイントを受講しました。



みんなですると楽しいね♪

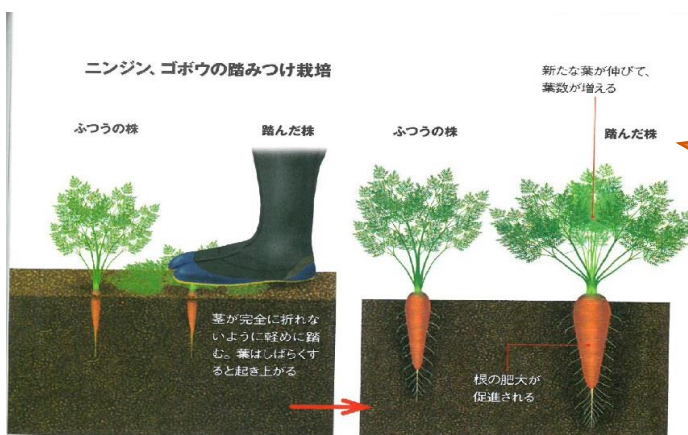
実習では2班に分かれ、農園に播種と定植の班、セルトレイに播種の班で作業を行いました。

農園には人参と大根の種を蒔き、キャベツとブロッコリー苗の定植を行いました。人参と大根は発芽するまで、乾燥させないように水分を十分に与えること。キャベツやブロッコリー苗を植える際には、植穴にもたっぷり水を与えることが重要だそうです。

大根の間引きをする際、「極上の大根を見抜く技」として、本葉2～3枚時は「ハート形♡」の株を、本葉6～7枚時以降は「小葉が大きく左右対称」、「葉が立っていて、色はやや濃い緑」を選び残すように間引くのがコツとのことです。

セルトレイに播種をする実習では、レタス・白菜・ブロッコリー・キャベツの種の中から、それぞれ好みの作物を選んで一粒ずつ丁寧に蒔きました。セルトレイに種を蒔く場合も発芽するまでは、たっぷりの水を与え、乾燥させないことが重要だそうです。発芽するまでは日の当たらないところで、発芽後は日の当たるところで育てるのがポイントです。

普段、大勢で農作業をすることのない農業塾生のみなさんが「みんなですると楽しいね♪」と楽しんで作業されていました。



「にんじんの傷つけ栽培」  
にんじんを踏みつけることによって、成長が促進される栽培方法。またにんじんは直播後、発芽するまでは水をたっぷり与え、初期の間引きの際は競わせることによって、大きく健全なにんじんを収穫することができるそうです。